

NN3002A シリアル IP アダプタ 簡易設定

1. 準備

設置作業に必要な機器等を以下に示します。

- ① コンソール用 PC (9 ピンシリアルコネクタが必要)
- ② シリアルインタフェースケーブル (NN3002A 添付品)
- ③ 汎用通信ターミナルソフト (TeraTerm 等)

シリアル接続での通信設定は、取扱説明書「5.1.2 シリアル接続での通信設定」(P30) を参照してください。

2. IP アドレス設定

IP アドレス設定はシステムコンソールより設定します。

以下に、本装置の IP アドレス設定の例を示します。

NN3002A (自装置)	—————	NN3002A (対向装置)
Netmask : 255.255.255.0		Netmask : 255.255.255.0
Default Gateway : 192.168.1.1		Default Gateway : 192.168.1.1
Local IP Address : 192.168.1.11		Local IP Address : 192.168.1.21
Local UDP-port : 50001		Local UDP-port : 50001
Peer IP Address : 192.168.1.21 ←	-----	Peer IP Address : 192.168.1.11
Peer UDP-port : 50001 ←	-----	Peer UDP-port : 50001

自 IP アドレス (Local IP Address)、自ポート番号 (Local UDP-Port)、ネットマスク設定 (Netmask)、デフォルトゲートウェイ設定 (Default Gateway) は、接続する IP ネットワークに合わせて設定してください。

通信相手を識別する対向アドレス (Peer IP Address) と対向ポート番号 (Peer UDP-Port) は、それぞれ対向装置となる NN3002A に合わせて設定してください。

※：対向でクロス設定となるように設定してください。

※：ポート番号 (UDP-Port) は自装置と対向装置で同じ番号を設定できます。

設定コマンドの詳細は、取扱説明書「第 8 章 コマンドリファレンス」(P53) を参照してください。

3. イーサネットインタフェース設定

イーサネットインタフェース設定はシステムコンソールより設定します。
以下に、本装置のイーサネットインタフェース設定の例を示します。

【IP ネットワーク機器が、“Auto Negotiation”の場合】

Autonegotiation : enable

【IP ネットワーク機器が、“100Mbit/s Full”の場合】

Autonegotiation : disable

Speed : 100Mbit/s

Duplex : Full (Fixed)

【IP ネットワーク機器が、“10Mbit/s Full”の場合】

Autonegotiation : disable

Speed : 10Mbit/s

Duplex : Full (Fixed)

設定コマンドの詳細は、取扱説明書「第 8 章 コマンドリファレンス」(P53) を参照してください。

4. 端末装置との接続

本装置と端末装置との接続には、端末インタフェース変換ケーブル(オプション品)を使って接続します。

- ① X.21/X.20 変換ケーブル
- ② V.24/V.28 変換ケーブル
- ③ V.35 変換ケーブル

変換ケーブルの詳細は、取扱説明書「4.5 端末インタフェース変換ケーブル(オプション品)」(P25) を参照してください。

5. システムクロック設定

本装置では、対向装置と合わせてシステムクロックを設定する必要があります。
以下に、本装置のシステムクロック設定の例を示します。

NN3002A (自装置)	—————	NN3002A (対向装置)
System clock : Master		System clock : Slave

※：システムクロックは、必ず対向で「Master」「Slave」の組合せになるように設定してください。

設定コマンドの詳細は、取扱説明書「第 8 章 コマンドリファレンス」(P53) を参照してください。

6. 端末インタフェース設定

端末インタフェース設定はシステムコンソールより設定します。

以下に、本装置の端末インタフェース設定の例を示します。

【V.24 インタフェース、非同期、4800bps の例】

Interface	: V.24/V.28	(V.24またはV.28インタフェース)
Mode	: Async	(非同期)
Speed	: 4800 bit/s	
Control signal	: Disable	(制御信号線の有効／無効)

【V.24 インタフェース、調歩同期、9600bps の例】

Interface	: V.24/V.28	(V.24またはV.28インタフェース)
Mode	: Start-Stop	(調歩同期)
Speed	: 9600 bit/s	
Control signal	: Disable	(制御信号線の有効／無効)

Data length	: 8 [bit]	(データ長)
Parity	: None	(パリティ)
Stop bit length	: 1 [bit]	(ストップビット長)

【X.21 インタフェース、同期、9600bps の例】

Interface	: X.21/X.20	(X.21またはX.20インタフェース)
Mode	: Sync	(同期)
Speed	: 9600 bit/s	
Control signal	: Enable	(制御信号線の有効／無効)
RS delay	: 20 [ms]	(制御信号線の遅延時間)

Send timing	: ST2/S	(送信側クロック)
Idle code	: Mark	(アイドルパターン)

設定コマンドの詳細は、取扱説明書「第 8 章 コマンドリファレンス」(P53) を参照してください。

7. ゆらぎ吸収バッファ設定

IP 網に対するゆらぎ吸収バッファ設定はシステムコンソールより設定します。

以下に、本装置のゆらぎ吸収バッファ設定の例を示します。

Fluctuation absorber : 2 [packet]



2/4/6/8 パケットが指定可能

ゆらぎ吸収バッファ設定の詳細は、取扱説明書「第 8 章 コマンドリファレンス 8.2.26 set transmission absorber」(P83) を参照してください。